

特別保護区3月19日は春の始まり



毎回行なう生物観察(フェノロジー)

鳥の足跡



カルガモ

19日の園内は、風は冷たいながらもすっかり春になっていました。草も木も新芽を伸ばし始め、木々の中でも早く咲くコブシは満開。タチツボスミレは落ち葉の間で花を咲かせ、ムサシアブミはとんがり芽の隣でひと株だけ独特の花を開いていました。先月行なわれた護岸の整備箇所にはキシウブが伸び始め、土の上にはカモ?の足跡が。先月いたカエルはいない様子。オタマジャクシは今年は生まれるでしょうか?

植物は次々と芽吹き 花を咲かせていました 【あちらこちら見て歩くとこんな具合】

三月の園内は植物が一斉に芽を出し花を咲かせます。1:ネコヤナギはふわふわの花を 2:タチツボスミレの株は今年は多数。3:ムサシアブミは独特の花(左)と矢のような芽生え(右) 4:ナギイカダの花は葉っぱの上 5:タラの芽はおいしそう 6:マンサクのチリチリ花 7:ヒサカキは一列に並んで葉のかけに 8:ヒトリシズカは落ち葉の間からみんな一緒に伸び 9:キシウブは水辺に並んで 10:コブシは頭上で満開でした。



竹柵の材料作り 三月の活動日19日に、園内の竹柵の痛んだものを交換するため、17日にビジターセンターで竹竿の(小割り)を作りました。竹を割る道具は昔から使われている専用品で「菊割り」。昔は小割りから、ざるやかごなどさまざまな生活用具を作っていたそうです。



伊藤さんの構えているのが竹を一度に六本に割る「菊割り」。田中さんの構えているのは、木製の巨大ハンマーで「かけや」といいます。



かけやで「菊割り」を一撃。金具が竹に食い込むので、一気に下まで押し下げると小割りに割れていきます。「あと何本必要なの?」まだまだ作ります。



出来上がった小割りの節を落とし、土に刺しやすいように先を尖らせます。19日の活動で園内の古い柵と交換しました。

冬眠から覚めた アカボシゴマダラ

落ち葉の下で冬を過ごしたアカボシゴマダラの幼虫が起き出して来ました。食樹エノキの新芽が伸びるのを待っているようです。幼虫は実生の若いエノキで見つけましたが、若い木の方が幼虫にとって短い距離を登るだけで葉にたどりつくことができるので都合がよいのかもしれませんが。



エノキの又にくっついているアカボシゴマダラ幼虫(⇒)